

生涯教育研修活動報告書

病理検査・細胞検査研究班

1 実施日時： 2021年 12月 10日 18時 00分 ～ 19時 00分

2 会場： Web開催 点数： 基礎 — 20点

3 主題： 病理検査室でのISO15189について

4 講師： 小島 朋子（自治医科大学附属さいたま医療センター 病理部）
小澤 英樹（株式会社ピーシーエルジャパン 病理細胞診センター）

5 協賛： _____

6 参加人数： 会員 71名 賛助会員 0名 非会員 0名

7 出席した研究班班員：

病理検査研究班：岡村卓哉 関口久男 森田繁 高橋俊介 細沼佑介 今村尚貴 小島朋子
細胞検査研究班：加藤智美 鶴岡慎悟 船津靖亮 松内萌 野本伊織 稲山拓司 急式政志
山崎泰樹

8 研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、「病理検査室でのISO15189」と題し、県内でのISO取得の実態や日頃疑問に思っていること、要求事項の再整理等について講演が行われた。

まず、病理・細胞検査研究班班員の協力のもと、病理検査室におけるISO15189の取得状況や苦勞・疑問に思っている点等についてアンケート調査を行った。取得割合は2-3割程度に留まり、ハードルの高さが窺われた。また、日頃から疑問に思っている点なども多数挙げられた。これら調査の結果を踏まえて、講師の小澤氏より「ISO15189病理検査室運用における指摘や疑問その解釈について」と題し、5章のおさらい、遭遇しやすい指摘事項や疑問・運用との差異、病理検査室運用における注意点を主に講演が行われた。第3者による評価の重要性や、疑問点として多く挙がっていた分野である、5章で特に病理検査室で指摘されやすい箇所等についても例示された。また、文書管理と実運用で起きがちな乖離についても、各施設で注意すべき点であると思われた。端的に標準化することが難しい分野ではあるが、要求事項に対する解釈の一助に繋がったと思われる。単に他施設と同じようにすればよいという解決策はなかなかなく、施設ごとの運用に応じて全員参加型で考えていくことが重要であると思われた。

提出日 2021年 12月 23日

文責：小島朋子